

スピーチテーブル『グロ』

ノルウェー国立女性博物館所蔵のスピーチテーブル『グロ』の姉妹作品を展示しています。

●スピーチテーブル『グロ』とは…

ノルウェーの人々に「グロ」と親しみをこめて呼ばれる女性がいます。1981年にノルウェー初の女性首相となり、政界への女性進出を強力に推しすすめた功労者といわれる、グロ・ハーレム・ブルントラント元首相、その人です。国連「環境と開発に関する世界委員会」別名「ブルントラント委員会」のリーダーであり、2003年までWHO（世界保健機構）事務局長としても活躍しました。

1986年、再び首相の座に就いたグロは、閣僚18人中8人を女性閣僚にし、世界をアツといわせました。その後、ノルウェーでは今まで男性の領域と思われていた地位に女性がつぎつぎに進出。彼女のリーダーシップによって、女性はできることを世界に証明して見せたのです。

首相を引退後、WHO事務局長に当選。精力的に活躍され、自伝「Madame, Prime Minister」が、『世界で仕事をするということ』（竹田ヨハネセン裕子：訳）というタイトルで日本でも翻訳出版されました。

※ ※ ※

スピーチテーブル『グロ』は、彼女をイメージに制作された芸術作品。ノルウェーの歴史や文化を女性の視点からとらえた展示を行っているノルウェー国立女性博物館に所蔵されています。展示品としてだけでなく、演台としても活用できるようになっている点が特徴です。制作者はトーネ・ヘレルードさん（テキスタイル作家）です。



●『グロ』をご寄託いただいた経緯

グロの生き方に感銘を受け、「このスピーチテーブルを仙台に」との思いから、募金活動がなされました。中心となったのは、ノルウェーの研究・交流を通して日本の男女平等実現をめざす「ノルウェーに学ぶ会」と、せんだい男女共同参画財団が2004年に主催した「ノルウェー・フィンランド男女平等政策研究視察」参加者のみなさんです。

集まった市民の皆様のご厚意とノルウェー国立女性博物館、制作者のご協力により、2004年10月、スピーチテーブル「グロ」の姉妹作を（財）せんだい男女共同参画財団へご寄託いただくこととなりました。以来、エル・パーク仙台で催される男女共同参画推進に向けたイベントに限定していますが、演台として市民グループの皆さんにご活用いただいております。

4児の母親としての暮らし、男性からの攻撃、息子の自死などに直面しながらも、逆風にたじろがず前向きに生きたグロ元首相の半生は、仙台の女性たちへの大きなエールとなることでしょう。